

# 本学服飾美術学科における卒業製作の主題に関する研究 — 1998年から2008年まで —

田中 早苗\*, 大塚 有里\*\*  
(平成20年9月30日受理)

## Research of a Subjects in the Graduation Theses of Tokyo Kasei University's Department of Clothing Science and Costume —From 1998 to 2008—

TANAKA, Sanae and OTSUKA, Yuri  
(Received on September 30, 2008)

キーワード：卒業論文，主題，手仕事，技法  
Key words : graduation thesis, subject, handicraft, technique

### 1. はじめに

服飾美術学科では専門教育科目の中に卒業研究を置いている。研究の形態は、論文、実験、製作または制作のいずれかである。昭和39年に服飾美術学科が設置されてから平成2年度の入学生まで「卒業論文・卒業製作」は必修科目として置かれていた。その後カリキュラムの改正によ

て選択科目となったが、現在も約8割の学生が「卒業研究(現科目名)」を履修している。過去10年の間に学生定員の増減があり、学科の所属教員数にも変化があった。しかし、和洋裁や手芸の技術で衣服製作を希望する学生は、一定の数が保たれているように思われる。一方、学生の裁縫技術の低下により、製作指導には一層の時間と工夫を要する現状にある。平成20年度入学生から卒業研究が新たに

入学年度	4年次年度	専攻・コース名称	クラス数	科目名	単位	必・選	開設年次	備 考		
H6	H9	被服専攻	3	服飾造形コース	卒業論文・卒業製作 (6)	選	4			
				生活科学コース	卒業研究 (2)					
H7	H10	被服専攻	3	服飾造形コース	卒業論文・卒業製作 (6)	選	4			
				生活科学コース	卒業研究 (2)					
H8	H11	被服専攻	3	服飾造形コース	卒業研究・製作 (4)	選	4	家教必		
				生活科学コース	卒業研究		3・4			衣管士必
H9	H12	被服専攻	3	服飾造形コース	卒業研究・製作 (4)	選	4	家教必	衣管士必	
				生活科学コース	卒業研究		3・4			
H10	H13	被服専攻	3	服飾造形コース	卒業研究・製作 (4)	選	4	家教必	衣管士必	
				生活科学コース	卒業研究		3・4			
H11	H14	被服専攻	3	服飾造形コース	卒業研究・製作 (4)	選	4	家教必	衣管士必	
				生活科学コース	卒業研究		3・4			
H12	H15	服飾専攻	3	造形・文化コース	卒業研究・製作 (4)	選	4		学芸員必	
				生活科学コース	卒業研究 (2)		3・4			衣管士必
H13	H16	服飾専攻	3	造形・文化コース	卒業研究・製作 (4)	選	4		学芸員必	
				生活科学コース	卒業研究 (2)		3・4			衣管士必
H14	H17	服飾専攻	3	造形・文化・生活科学コース	卒業研究 (4)	選	3・4	家教必	衣管士必	学芸員必
				造形・文化・生活科学コース	卒業研究 (4)		3・4			
H15	H18	(専攻なし)	3	造形・文化・生活科学コース	卒業研究 (4)	選	3・4	家教必	1級衣管士必	学芸員必
				造形・文化・生活科学コース	卒業研究 (4)		3・4			
H16	H19	(専攻なし)	3	造形・文化・生活科学コース	卒業研究 (4)	選	3・4	家教必	1級衣管士必	学芸員必
				造形・文化・生活科学コース	卒業研究 (4)		3・4			
H17	H20	(専攻なし)	3	造形・文化・生活科学コース	卒業研究 (4)	選	3・4	家教必	1級衣管士必	学芸員必
				造形・文化・生活科学コース	卒業研究 (4)		3・4			
H18	H21	(専攻なし)	3	造形・文化・生活科学コース	卒業研究 (4)	選	3・4	家教必	1級衣管士必	学芸員必
				造形・文化・生活科学コース	卒業研究 (4)		3・4			
H19	H22	(専攻なし)	4	造形・文化・生活科学コース	卒業研究 (4)	選	3・4	家教必	1級衣管士必	学芸員必
				造形・文化・生活科学コース	卒業研究 (4)		3・4			
H20	H23	(コースなし)	4	卒業研究	(4)	必	4			

\* 服飾美術科 被服構成システム研究室  
\*\* 服飾美術学科 手芸研究室

表1 服飾美術学科の体制と卒業研究科目

必修科目となる。これに向けて、学生に適切な援助を提供し、これまでに行われてきた製作研究を維持・継続して行かなくてはならない。

この研究は、洋服、和服、手芸、染織など造形領域の製作研究の内容と傾向を知る資料作成を目的として行った。過去11年間において製作を選択した学生数と製作種類を調べ、論文題目から判別できる研究の主題分類を行った。この研究の背景となる平成9年以降の学科体制と卒業研究科目の変遷を表1に示した。

## 2. 方法

### 2-1 調査対象

服飾美術学科卒業研究要旨集平成9年度から平成19年度までの11冊。

### 2-2 調査内容

- 1) 要旨集掲載数
- 2) 研究領域の内訳
- 3) 造形領域の製作種類別内訳
- 4) 製作研究の主題分類

## 3. 結果・考察

### 3-1 要旨集掲載数

表2 要旨集掲載数

年度	学生数	要旨集掲載		卒業製作(造形)				卒業研究
		件数	人数	洋服	和服	服飾小物	合計	生活科学/文化/造形
H9	199名	95	95	28人	5人	10人	43人	52人
H10	154	56	58	10	9	9	28	30
H11	165	65	68	21	6	9	36	32
H12	213	71	79	18	8	5	31	48
H13	196	71	75	22	11	9	42	33
H14	182	69	70	17	8	8	33	37
H15	169	84	95	23	6	6	35	60
H16	186	116	126	32	14	7	53	73
H17	162	129	143	42	15	6	63	80
H18	157	133	140	50	19	3	72	68
H19	146	111	123	44	7	1	52	71

卒業研究は、要旨集が冊子体にまとめられ始めた平成9年には既に選択科目として置かれていた。表2に要旨集掲載数を示した。当初の要旨集掲載者数は、卒業学年在籍者数(表2の学生数)に対して5割程度であったが、近年掲載者数は8割を超えている。卒業研究の履修者は、要旨集に発表することを前提としているので、要旨集掲載者を卒業研究の単位取得者とみなすことができる。要旨集掲載数を件数と人数に分けたのは、一つの研究題目に複数の学生が携わっている場合があるためである。造形領域の洋服、和服、服飾小物の製作数とさらに、他領域と造形領域の製作以外の研究も含めた件数を表示した。

### 3-2 卒業研究形態の内訳

本学科の卒業研究は、生活科学、文化、造形の3つの領域に分けられる。生活科学領域は主に被服材料、染色加工、被服整理学等の実験を中心とした内容で、文化領域は服装史、色彩、アパレル企画などの論文・制作が中心である。制作と製作の表現の違いを広辞苑で見ると、制作は「①定め作ること。考え定めること。②芸術作品をつくること。また、その考え。」とあり、製作は「ものをつくること。また、つくったもの。」とある。本学科では文化領域では制作を用い、造形領域では製作を用いている場合が多い。

造形領域の卒業研究には、和洋裁、手芸、染織等の技術による製作研究と論文、実験等がある。本論文では、製作研究の詳細を知りたいことを目的としたので、製作選択者を製作品の種類から洋服、和服、服飾小物の3つの区分に分けた。服飾小物とは、衣服の形態をとらない手芸、染織の技術による服飾品や室内装飾品の製作を示すものとした。製作研究に主眼を置いたので、製作研究とそれ以外の論文、実験、制作との対比を調べた。したがって卒業研究の形態は、洋服、和服、服飾小物と論文・実験・制作で図1卒業研究の内訳(1998~2008)と図2に年度別内訳を示した。

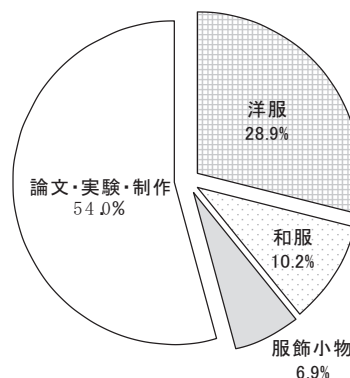


図1 卒業研究の内訳(1998年度~2008年度)

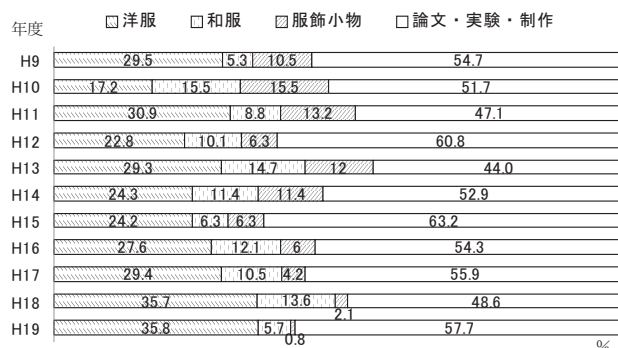


図2 卒業研究の年度別内訳

### 3-3 製作種類別内訳

造形領域の製作研究は488件あり、これを洋服、和服、服飾小物に区分し、製作品を種類別に示したのが表3製作別件数である。この表は、研究題目に書かれた服種や作品

表3 製作別件数

区分	製作の種類	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	合計	%	
洋服	アンサンブル									1			1	0.2	
	イブニングドレス	2		2		1				1	1		7	1.4	
	ウエディングドレス	13	1	7	3	8	12	19	19	24	33	30	169	34.6	
	カクテルドレス					1	1						2	0.4	
	カラードレス						2	1	1	2			6	1.2	
	子供服									1			1	0.2	
	コート	2		1		2			1	1			7	1.4	
	ジャケット					1							1	0.2	
	ジャケットとワンピース											1	1	0.2	
	シャツとスカート											1	1	0.2	
	スカート				1								1	0.2	
	スーツ		1	1		1							3	0.6	
	ダンス衣装	1											1	0.2	
	ツーピースドレス									3	1	1	1	6	1.2
	ドレス	5	1	5	10	3						3	2	29	5.9
	ナイトドレス									1				1	0.2
	ニットドレス		1		1					1				3	0.6
	パーティドレス	4							3		2		2	11	2.3
	バレエ衣装										1		2	3	0.6
	フォーマルドレス	1		1	1	3	2			1	4	2	3	18	3.7
	ワンピースドレス		2	3	2	1				5	4	8	4	29	5.9
	その他		4	1		1								6	1.2
	小計	28	10	21	18	22	17	23	32	42	50	44	307	62.9	
和服	色無地				1		1					1	3	0.6	
	きもの	2											2	0.4	
	小袖	2	2	1									5	1.0	
	小紋	1	2	2	4	3			1	1	5	3	22	4.5	
	付け下げ		1	2	2	5	5	3	4	4	2	1	29	5.9	
	付け下げ小紋					1		1					2	0.4	
	付け下げ訪問着										1		1	0.2	
	振袖						1			1			2	0.4	
	訪問着		4	1	1	2	1	2	9	9	11	2	42	8.6	
	小計	5	9	6	8	11	8	6	14	15	19	7	108	22.1	
服飾小物	絵本					1				1			2	0.4	
	帯						1						1	0.2	
	額装		1	2		2	1		2	3			11	2.3	
	カフェカーテン				1			1					2	0.4	
	ショール・ストール					1		1	4	1			7	1.4	
	タペストリー	4	2	1	2	1	1	1		1	1	1	15	3.1	
	テーブルクロス・テーブルセンター	3	1	2			2	2					10	2.0	
	テーブルウエア										1		1	0.2	
	布地			4	2									6	1.2
	バッグ	2	2				1		1					6	1.2
	パラソル					1								1	0.2
	ピアノカバー					1	1	1						3	0.6
	ブーケ		1											1	0.2
	ブランケット		1											1	0.2
	ベッドカバー					2								2	0.4
	ヘッドドレス	1						1						2	0.4
	マット		1											1	0.2
	ルームウエア											1		1	0.2
小計	10	9	9	5	9	8	6	7	6	3	1	73	15.0		
合計	43	28	36	31	42	33	35	53	63	72	52	488	100.0		

の名称をそのままの表現で引用している。例えば「パーティードレス」や「フォーマルドレス」のように同じ服種と思われるものや、単に「ドレス」と表記されたものも服種の表現を参考とするために別種類とした。

製作品の種類では、ウェディングドレスの製作が製作研究全体の34%と圧倒的に多く、イブニングドレスやカラードレスなどのドレス類を含めると約50%を占めた。このドレス製作の人気は近年増加傾向にある。

洋服の区分の中で、ドレス類に次いで近年見られたのがワンピースドレスである。これはディテールに手芸の各種技法による装飾を施した製作が増えていることが考えられる。

和服の区分は、製作全体の22%を占め、訪問着、付け下げ、小紋の順に多かった。一般に若年層の裁縫離れが言われる昨今であるが、和服製作も近年増加傾向にあり、本学科には裁縫好きの学生が顕在と見られる。

服飾小物の区分には、手芸、染織の技術を用いた製作物を示している。したがって、これらの技法を用いてドレスや和服が製作された数は、洋服または和服の区分に含まれている。学科の体制に変化のあった平成18年度卒業生から染織でのタピスリーやテーブルウェアなどのインテリア装飾の製作が減少している。

### 3-4 製作研究の主題分類

製作研究の題目には、製作対象物のみを題目にしたものと、製作に加えて製作品に関連する研究対象を設定し表記したものがある。いずれの場合も研究主題として要素ご

とに分類した。

分類項目は①アイテム、②技法(手芸・染色・織物)③歴史・民族、④アクセサリ、⑤ファッション一般 ⑥ソーイング・ディテール、⑦ビジネス、⑧カラー、⑨マテリアル、⑩ビューティー、⑪その他の11要素である。この分類項目は、ファッション辞典<sup>1)</sup>の目次に準じて設定した。本学科の製作研究の特徴に合わせて工芸的要素の強い染色と織物はマテリアルには含めず、手芸と合わせて②技法(手芸・染色・織物)とした。また、ディテールを研究対象としたものが少なかったため、ソーイングの項目と合わせて⑥ソーイング・ディテールとした。

図3 分類主題の内訳は、製作研究11年間分488件の題目に見られたキーワードの分類結果である。

①アイテムに分類した題目は「ウェディングドレスの製作」、「訪問着の製作」のように製作品の名称のみを題目に

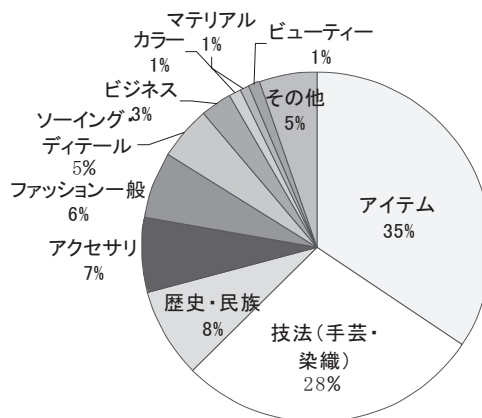


図3 分類主題の内訳

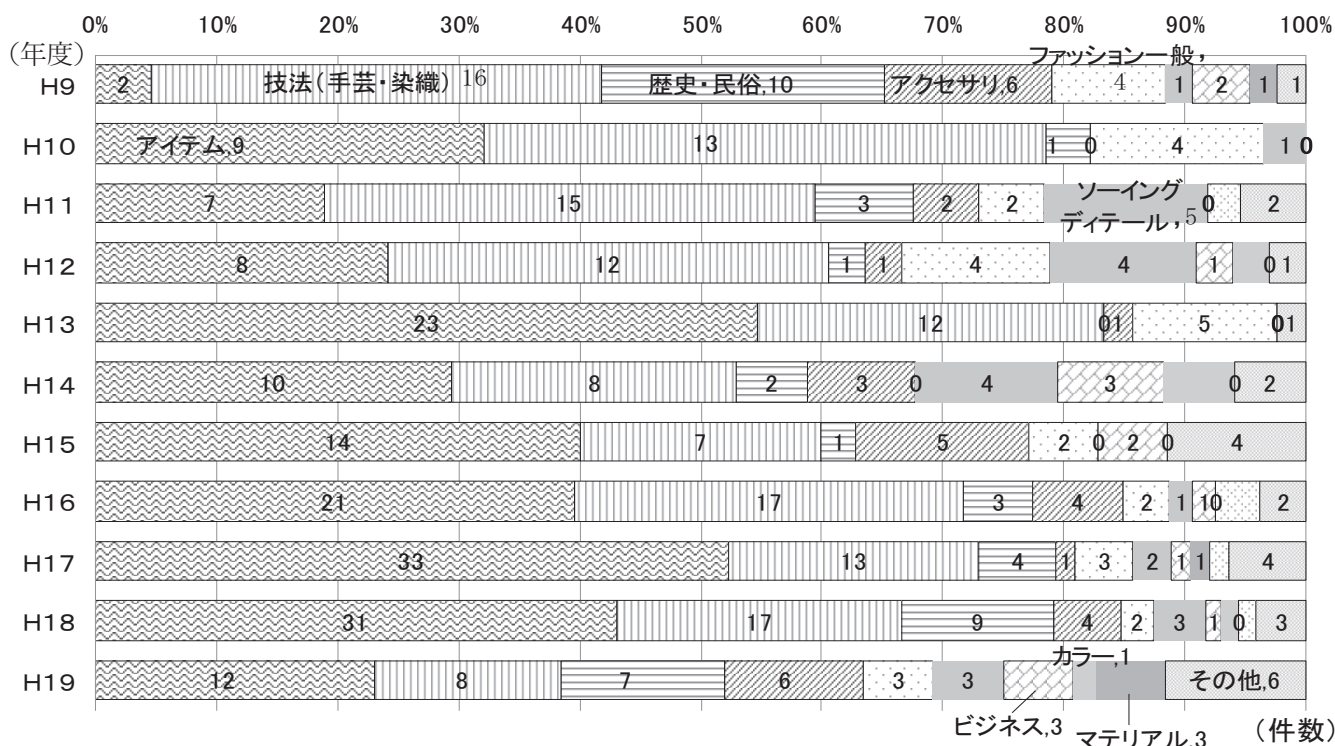


図4 分類主題の推移

「ウェディングドレスの製作とコルセットについて」のように製作品以外の研究対象が服種である場合も含めている。また製作にイメージや作品のコンセプトなどのサブタイトルが付けられたものもアイテムに含めた。図3では①アイテムが35%と最も多く、次いで②技法(手芸・染織)28%、③歴史・民族8%、④アクセサリー7%、⑤ファッション一般6%の順であった。

図4分類主題の推移に、分類内訳の11年間の推移を示した。何れの年もアイテムと技法(手芸・染織)が多いことが判る。特に平成9年から平成13年までに技法(手芸・染織)が多いのは、染色と織物の製作を選択できる学科体制であったことによる。平成19年はアイテムと技法(手芸・染織)は10~20%代に抑えられているが、各々の分類要素が満遍なく増加している。これは、アイテムと技法(手芸・染織)を主題とする研究が減少したのではなく、製作に加えて多様な主題を研究の対象としているためであり、平成19年にはその傾向が強化されたものと推察した。

表4に製作研究の主題を示した。表中のキーワードまたは主題は、題目中の表現にある「~の研究」「~について」「~による」「~に関する」などの助詞以下を省略して示した。合計に重複ありと示された分類項目は、主題分類内訳よりもキーワード数が増えており、これは、例えば「カットワークと自由刺繍」のように、同じ分類項目に2つ以上のキーワードが含まれている場合である。

①アイテムでは、製作品の名称のみを題目に記したものが164件、製作品以外の研究対象が服種であったものが6件、合計170の題目が含まれた。アイテムを主題とするものは、前出表3の製作別件数とほぼ同じ服種を提示することになるので、表4では製作品以外の研究対象が服種である場合の6件のみを示した。製作と並行して卒業研究を行う場合の多くは、製作品に関連する要素を主題としているが、中には関連性の有無が判らない主題もあった。

②技法(手芸・染織)では、製作に用いられる技法の種類が多さが特徴としてあげられる。手芸技法の刺繍の中では、自由刺繍23件、ビーズワーク11件、カットワーク10件等、レースの中では、クロッシェレース14件、タティングレース13件が大半を占めている。染織技法の染色の中では、具体的な技法をキーワードから探ることは難しい。技法全体から言えることは、題目として選択される数は少ない技法であっても、個性豊かなオリジナル作品を作る上で価値のある技法であると言える。

③歴史・民族では、歴史衣裳や民族衣裳の特徴を作品のデザインに取り入れた題目が多く見られた。しかし、アイテムやファッションに関する歴史を大まかに捉え、製作と並行して行う研究としてはテーマが大きいと思われるものもある。歴史と民族の割合は約8:2で歴史に関する研究が多かった。

④アクセサリーの分類には、ジュエリー・装身具の他、帽子、ネクタイ、スカーフ、バッグ、靴のような小物類も含まれる。ここに集計されたのは、ほとんどがウェディングに関連する小物であった。出現の多かったブーケ、ウェディング小物、ブライダル装飾品などは、内容がほとんど同じものと考えられるが、表現の違いを尊重し別個に集計した。

⑤ファッション一般は、シルエット、ライン、ルック、スタイル、アート、デザイン等が含まれる。この分類に属する題目は、「アールヌーボーの曲線美」や「昆虫をデザインに取り入れた服の製作」に見られるように、作品のコンセプトやデザイン様式を主題としている個性的な題目が見られる。また、特定のシルエットやラインの研究は、歴史の項目に含めることもできる。研究の対象範囲が絞られている。

⑥ソーイング・ディテールに属するキーワードは、ファッション辞典の分類では縫製、製図、ボタン・ボタンホール、用具・付属品がソーイングであり、衿、ネックライン、袖など衣服の部分名称とその他をディテールとしている。ここでは、体型や人体は製図に関わる要素であり、また裏地、芯地等の副資材は縫製のための要素としてこの項目に含めた。題目は複数の要素を持っているものがあり、詳細に分けるとキーワード数は重複して表すこともできる。例えば「立体裁断による衿のデザインの変化」のキーワードは立体裁断と衿であるが、この項目の件数が24件と少なかったのでそのままの表現で示した。その結果、ボタンと副資材が各4件、体型、立体裁断が各3件、ディテールとしては衿(襟)、プリーツが各3件見られた。ボタンに関する研究は平成16年以降に集中していた。

⑦ビジネスに属するキーワードは、ファッション・ビジネス、規格、サイズとなっており、社会性を伴う主題がここに含まれる。コーディネートを主題とするものが3件あり、他はウェディング、ブライダルなど表現は異なるが結婚式の衣裳に関する主題が5件あった。

この他⑧カラーに属する5件のうち3件が婚礼衣裳の色に関する研究であった。また、⑨マテリアルに属する5件のうち4件は製作品との関連性は無かった。⑩ビューティーの5件のうち、ブライダルメイクは平成11年に出現し、それ以外は平成16年以降のものである。近年、大衆に関心の高いネイルアートが卒業研究の主題としても出現していた。

⑪その他に属した主題をさらに分類すると、デザイナーや映画俳優などの人物に関する主題が11件、絵本やアニメーションの主人公に人形やぬいぐるみを含めたキャラクターに関する主題が6件、結婚に関する主題が5件、子供に関する主題が3件であった。これら主題は一つの題目に重複しているものもある。

表 4 製作研究の主題

	①アイテム		小紋柄の種類と歴史	1	
	アイテム名だけの題目	164	宗教における花嫁衣裳	1	
	コート	1	正装の歴史	1	
	コルセット	2	世界の婚礼衣裳	1	
	ジーンズ	1	戦後のファッション	1	
	下着	1	近世の服飾	1	
	ランジェリー	1	ドレスの源流	1	
	合計	170	歴史(続き)	1	
	②技法(手芸・染織)		ドレスの中の歴史	1	
	自由刺繍	23	日本人の洋装の歴史	1	
	ビーズワーク	11	日本におけるブリーツの歴史	1	
	カットワーク	10	日本の結婚式の歴史から現代に至るまで	1	
	パッチワーク	8	日本のドレスの歴史	1	
	アジュール刺繍	6	日本の服飾の変遷	1	
	紹刺し	4	バレエの歴史	1	
	ニードルポイント	2	ファッションの歴史	1	
刺	プチポアン	2	ボーンパニエの歴史	1	
繡	クロスステッチ	1	指輪の文化史	1	
	こぎん刺し	1	レースの歴史	1	
	白糸刺繍	1	レースの歴史と種類	1	
	スモッキングワーク	1	アンデス古代文明	1	
	チュール刺繍	1	インドの民族衣装	1	
	日本刺繍	1	韓国の服飾	1	
	ハーダンガー刺繍	1	チェコスロバキア・ハナ地方の民族衣装に使用されているレース	1	
	ミシンキルト	1	チベットの民族衣装	1	
レ	クロッシェレース	14	チマチヨゴリ	1	
ー	タティングレース	13	合計	41	
ス	アイリッシュ・クロッシェ・レース	4	④アクセサリー		
	バテンレース	1	ブーケ	3	
編	ニッティング	5	ウェディングブーケ	3	
物	手紡ぎ糸	1	ウェディング小物	3	
	染色	16	ウ	ブライダル装飾品	2
	絞り	2	エ	ジュエリー	2
	シルクスクリーン	2	デ	指輪	2
染	ステンシル	1	イ	花嫁の花飾り	1
色	草木染	1	ン	ブーケ&花	1
	紅茶染め	1	グ	ブーケとブーツニア	1
	新潟の染織	1		ファンデーション	1
	ろうけつ染め	1		ヘッドドレス	1
	オーバーショット	2		ティアラ	1
織	織り(服地)	2		靴	4
物	織り	1		帽子	3
	ノッティング	1	そ	アクセサリー	1
	合計(重複あり)	143	の	靴	1
	③歴史・民族		他	ストール	1
	ドレスの歴史	3		ネクタイ	1
	ウェディングドレスの歴史	2		リボン	1
	18Cロココ女性の髪結いとかぶり物	1		合計	33
	1950年代のスタイル	1		⑤ファッション一般	
歴	1981-2000のファッション動向	1		フォーマルウエア	3
史	19C前半のドレス装飾	1		オールオケショナルドレスとコート	1
	19Cヨーロッパのウェディングドレス	1		かりゆしウエア2006	1
	50年代のファッションの流行	1	衣	奇術師の服装	1
	70年代ファッション	1	装	劇団四季舞台衣装について	1
	ウェディングにまつわる歴史と習慣	1		子供のフォーマルドレス	1
	各地の結婚に関するしきたり	1		パッスル衣裳	1
	家紋の歴史	1		礼服・結婚式の装いについて	1
	着物の歴史	1		舞台衣装 わが町	1

(⑤ファッション一般続き)		⑧カラー	1
シルエット・ライン	3	ウエディングドレスに見られる色彩	1
クリノリンシルエット	1	新郎新婦の白と黒についての研究	1
フ イサドラ・ダンカンにみるモダンダンスの思想・	1	色のイメージの研究	1
ア 踊り・衣装と当時のモード		ファッションカラー	1
ツ Purest Wedding	1	ウエディングドレスの色	1
シ ヴィンテージファッション	1	合計	5
ヨ アールデコとファッション	1		
ン 映画とファッション	1	⑨マテリアル	
ジャポニズムファッション	1	古着の着物を利用したドレス	1
フェミニズムにおけるボディコンシャス	1	天然素材の研究	1
アールヌーボーの曲線美	1	ジャージー	1
アシメントリーのデザイン効果	1	タータンチェック	1
デ 後ろ姿の魅力	1	毛皮	1
ザ コルセットのつくり出す女性美	1	合計	5
イン 昆虫をデザインに取り入れた服	1		
線の効果的な使い方	1	⑩ビューティー	
ピアズリーのイラストからのデザイン発想	1	香水について	2
ファッションデザインに見られる穴	1	ブライダルメイク	1
ルネ・ラリックから発想したイブニングドレス	1	ブライダルネイルについて	1
合計	33	ネイルアートについての研究	1
		合計	5
⑥ソーイング・ディテール			
ボタン	4	⑪その他	
体型に合うウエディングドレス	1	ココ・シャネル	2
立体裁断による衿のデザインの変化	1	デ イヴ・サンローラン	1
下着の種類と体型	1	ザ 桂由美	1
芯地による襟のシルエット	1	イ グレース・ケリー	1
日本における洋服の仕立て	1	ナ 時間をデザインする山本耀司	1
立体裁断によるアレンジドレス	1	丨 フォルチュニイ	1
立体裁断によるドレス	1	マダム・グレの作品にみる造形	1
衿のデザインと体型との関係	1	オードリー・ヘップバーンのファッション	2
ドレスのシルエット作りに用いられる副資材	1	キ マリー・アントワネットの生涯とファッション	1
表地と裏地の関係	1	ヤ テディベア	2
衿の芯地仕様	1	ラ 絵本の登場人物とその服飾	1
アイロン	1	ク 着せ替え人形	1
人体骨格概要	1	タ シンデレラ	1
きものミシン縫製	1	丨 ディズニープリンセス	1
接着テープ	1	ファッションドールとその洋服	1
デ 袖〜パフ・スリーブ	1	ウ 憧れの心情	1
イ プリーツを取り入れたウエディングドレス	1	エ ウエディング 初めて物語	1
テ プリーツを活かしたドレス	1	デ ウエディングパーティーにおける子供達の役割	1
丨 プリーツ	1	イ 結婚式を迎えるにあたって	1
ル ドレープ	1	ン 結婚に関する迷信、ジンクス	1
合計	24	グ 結婚について	1
		キッズ 子供の成長とお祝い事	1
⑦ビジネス		上品な子供服と女性の自立を支えた洋裁	1
ウ エディング	1	合計	24
ブライダルの形成調査	1		
結婚式TPO	1		
ウエディングファッションの基礎知識	1		
ドレスの選択方法	1		
ブライダル業界の歴史	1		
フォーマル	1		
コーディネート	3		
そ オート・クチュール	2		
の 現代のファッション傾向	1		
他 スーパーモデル	1		
ユニバーサルファッション	1		
合計(重複あり)	8		

#### 4. まとめ

近年、卒業研究に洋服や和服の製作を選択する学生数の割合は増加傾向にある。特にウェディングドレスの製作を希望し、ウェディングに関連する研究を主題としているものが圧倒的に多い。

製作のみを研究の主題にしている場合も多い半面、製作以外に設定した研究の主題も多様化し、流行やファッションの影響が現れている。

ものづくりや手仕事に対する社会評価が見直されてきている現在、学生も技術力の低下とは相反して製作を希望している。我々は、学生が個々の能力に合わせて製作研究に臨めるような研究テーマの指導につとめたい。

#### 参考文献

- 1) ファッション辞典, 文化出版局, (1999)

#### Summary

There are the investigations of the experiments in handicraft in the graduation theses of the Department of Clothing Science and Costume. It was expected that the proportion of the handicraft would be high. The purpose of our research was to ascertain the content proving this. The titles of the graduation theses of the past 11 years was examined, the subject of these titles were examined and classified it into 11 elements. The result was that, there were a lot of studies whose subject was the wedding dress. This tendency might continue in the future. Moreover, a lot of techniques were used for the handicraft.